

事務事業名	秘書管理業務				担当	総務部 秘書課 秘書政策係	
政策名	H	施策体系外			電話番号	0285-83-8098	
施策名	1	施策体系外の事業			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 昭和29年度~)	
予算科目	1.一般会計	2.総務費	1.総務管理費	1.一般管理費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度)	
事業概要	市長、副市長の秘書業務・日程管理：年間を通じての管理簿、週予定表、日毎の日程表により市長用務、副市長用務を調整、管理。・交際費執行：「交際費取り扱い基準」に基づき執行。・随行業務：弔事以外の市内用務については原則、随行なし。(運転業務と兼ねる。)・来客接待：市長室、副市長室への来客の接待。・苦情等対応：市長室に直接寄せられた苦情、要望について担当課等との連絡調整を図る。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動) 23年度実績 日程管理、交際費執行、公務内容に応じた随行業務、来客接待、苦情や要望に関する対応等を随時実施。 24年度計画 平成23年度と同じ。	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移							
	名称							
	ア	市長、副市長の行事予定件数	件	2,850	2,250	2,640	2,196	2,200
	イ	交際費の支出件数	件	266	354	324	308	320
	ウ							
エ								
オ								
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市長、副市長の公務	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移							
	名称							
	ア	会議、行事等の件数	件	2,850	2,250	2,640	2,196	2,200
	イ							
	ウ							
エ								
オ								
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 市長、副市長が効率的に公務を執行できる環境を整える。	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移							
	名称							
	ア	公務を予定通り執行できた割合	%	100	100	100	100	100
	イ							
	ウ							
エ								
オ								
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 市長、副市長の効率的な公務の執行。	⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移							
	名称							
	ア	効率的な公務の執行ができた割合	%	100	100	100	100	100
	イ							
	ウ							
エ								
オ								

(2) 総事業費の推移		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳						
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,531	2,380	2,248	1,972	0	
	事業費計(A)	千円	2,531	2,380	2,248	1,972	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	3	4	4	4	0
		延べ業務時間	時間	1,990	1,950	2,007	2,141	0
		人件費計(B)	千円	8,314	7,909	8,566	9,082	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	10,845	10,289	10,814	11,054	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	市長、副市長の公務執行の効率化を図るため。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	・行政需要の増大とともに、市長、副市長が出席する会議、行事等の件数も多くなってきており、より効率化が求められている。・社会の情報化が進む中、市長、副市長の求めに応じて情報を迅速正確に提供できるよう情報処理能力の向上が求められている。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・行政需要の増大とともに、市長が出席する会議、行事等の件数も多くなってきており、より効率化が求められている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市長、副市長が最適な判断を行うために、公務に専念できる環境を整える必要がある。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市長は、多くの市民の意見を聞くために、可能な限り地域の行事等にも積極的に出席している。多忙を極めており、公務が重複する場合は、副市長や教育長、部長が代理出席している。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 常時の随行体制を整えることが理想であるが、職員増を伴うものであり、本市の組織規模から困難な状況である。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 市長、副市長が公務に支障をきたす。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業費は、総会の負担金や香料などの交際費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 秘書管理業務に必要な人件費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							